

旭町・明神町地区周辺まちづくり構想改定の視点について

○新型コロナ危機を踏まえたまちづくりの方向性

【今後見込まれる方向性】

- ・住宅地周辺にサテライトオフィスなどの働く機能が求められるなど、働く場と居住の場の融合が起こるのではないかと考えられる。
 - ・緑とオープンスペースは、オフィス周辺の良好な居住環境や交流・滞在空間を充実させる場として、また、自宅周辺の憩いの場として、価値が高まってきている。
- 【対応例】
- ・サテライトオフィスの提供など、「ニューノーマル」における職住近接ニーズを踏まえた市街地更新や既存ストックのリニューアルを促進する手法を検討する。
 - ・公園に限らない様々なオープンスペースについて、オープンテラスやテイクアウト販売等の多様なニーズに応じて柔軟に活用する。

○イノベーション創出まちづくりに向けた交流等を促すソフト施策

【課題】

- ・多摩イノベーション創出環境の実現の観点から大きな役割を担うソフト面について、多摩産業交流センターや都市型広場等の導入機能が十分に活用され、ヒト・モノ・コトの集積・交流が図られるための仕掛け等の構築

【対応例】

- ・都市型広場のポテンシャルをより一層引き出し、ヒト・モノ・コトの集積・交流を図るため、地域に関わる多様な主体が連携し、主体的・持続的にソフト施策を展開する活動体制・運営方法等のあり方を検討する。
- ・体制整備に向け、計画・整備・管理運営等の各段階での多様な主体の参加機会や連携・共同して実施するパイロットプロジェクトを検討する。

○イノベーション創出まちづくりに必要な導入機能

【課題】

- ・多摩産業交流センターの整備効果を一層高め、多摩地域のイノベーション創出に寄与する交流等の創出等
- ・スタートアップ企業や知識創造産業の人材を受け入れ、居続けてもらうためのまちづくり

【対応例】

- ・多摩産業交流センターと連携し、整備効果を高めるオープンスペース機能や産業支援機能などを導入する。
- ・多摩地域の創業支援機関・インキュベーション施設等からの情報収集、ニーズ把握。
- ・クリエイティブな人材が家族とともに快適に過ごせる居住環境や教育機能、居心地の良い交流・滞在空間やゆとりあるパブリックスペースに対応した都市機能・居住機能を導入する。

○都市基盤の整備

【課題】

- ・地区開発を見据えた都市基盤整備の検討・実施
- ・ウォークラブルなまちづくり等、新たなまちづくりの方向性等を踏まえた都市基盤整備

【対応例】

- ・地区開発を見据えて先行実施している都市基盤整備（れんが通りの無電柱化等）の着実な推進するとともに、地区開発に合わせて一体的に実施する歩行空間等の都市基盤整備の検討を具体化・深度化する。
- ・都市型広場をはじめ、ソフト施策を実施しやすいハード整備を検討する。

○土地の有効利用が図られていない街区の機能更新

【課題】

- ・駅前立地や多摩産業交流センター整備による波及効果・機運向上を活かした市街地更新
- ・地区の特性に応じた市街地更新

【対応例】

- ・街区の特性・課題に応じた建替え・共同化を促進するため、地区計画の導入等の手法を検討する。



※ゾーン区分・名称は、現行「旭町・明神町地区周辺まちづくり構想」におけるゾーニング

「この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。（承認番号）2都市基交著第99号」